

無雙神傳英信流拔刀兵法 大石神影流劔術 澁川一流柔術

## 貫 汪 館 会 報

貫汪館支部：横浜、名古屋西、北大阪、呉中央、久留米、フランス、オーストラリア、ロンドン

### 島村右馬丞生誕二百年記念居合演武会

平成28年6月5日（日）細川家ゆかりの地である高知県は春野公民館において貫汪館主催「島村右馬丞生誕二百年記念居合演武会」が開催されました。

第1部は講演会「島村右馬丞と細川義昌の事績紹介」。パワーポイントを利用した貫汪館館長の講演です。実技だけでなく、武道史の造詣も深い館長ならではのことかと思えます。皆さん興味津々で、食い入るようにじっとご覧になっていました。初めて聞いた、という内容も多かったかもしれません。

第2部は演武会。内容はもちろん、無雙神伝英信流拔刀兵法の大森流、英信流表、太刀打、詰合、大小詰、大小立詰、英信流奥のすべて。

そして、土佐に縁の深い大石神影流劔術からは陽之表も。英信流の劔術技法との差がよくわかりいただけたかと思えます。

さらに、澁川一流柔術のうち鯉口と居合を。どちらもいわゆる無刀捕りです。英信流には大小詰などの柔術技法が多数含まれていますが、居合（拔刀兵法）ですので、自分は常に帯刀をしています。そのため、自分の刀を抜かずに相手を制する形はありますが、いわゆる無刀捕りは含まれていません。

また、直心影流薙刀術高知県支部の先生方にもご演武いただきました。

無雙神伝英信流拔刀兵法だけでなく、貫汪館で傳承されている他の二流派と他流の薙刀術も合わせ、多角的にご覧いただけたのではないかと思います。

観覧用にイスを50脚ほど並べましたがおよそ満席になり、追加をしました。途中で退席された方はいらっしやらないようでした。

不肖私も司会と演武の一部を務めさせていただきましたが、斯界に一石を投じ、また足跡ともなる講演と演武会に参加させていただいたことを大変光栄に存じます。ただ、至らぬ点も多く、その点は深く反省をいたしました。

事前の準備から大変お世話になりました細川様をはじめ、春野公民館、地元住民の方々、高知市教育委員会、高知新聞、自由民権記念館、坂本龍馬記念館、劔道日本、劔道連盟の居合関係者、また遥々遠方よりお越しの方々、その皆様方に心より御礼申し上げます。ありがとうございました。

横浜支部長 内住信之

# 島村右馬丞生誕二百年記念居合演武会



## 山形県村山市居合神社奉納演武会

6月、一般社団法人武道振興會主催の奉納演武会に参加させて頂きました。恥ずかしながら有名な居合神社にお詣りさせて頂くのはこの度が初めて、山形を訪れるのも初めてでした。有難いことに名古屋からは飛行機の直通便が出ており、地図上の距離からイメージしていたより、遥かに楽に着くことが出来ました。

初日の11日は飛行機の時間の都合で集合時間よりかなり早く山形入りし、最上徳内記念館で森本館長と待ち合わせを致しました。ちなみに最上徳内は幕末に北方の調査を九回も行った探検家です。今回の本題とは関係のない方ですが、大変偉大な業績を残された方ですので是非ご興味を持って頂ければと思います。記念館の副館長は今回の行事にご協力くださっていて、この後二日間に亘り、大変お世話になりました。

宿泊地の温泉保養館「クアハウス基点」で武道振興會代表の森頭先生、他流派の先生方、横浜支部長と合流した後、尾花沢の釜ヶ沢大明神奥の院までバスでお連れ頂きました。山中にある小さなお社です。一説にはこの辺りで居合の祖、林崎重信公が修行されたとのこと。正式参拝の後、各流派代表による奉納演武が行われました。

夜には前夜祭が催され、各流派の先生方から色々なお話を伺うことが出来、大変勉強になりました。折角の温泉地なので、そちらも堪能させて頂き、ゆったりとした時間を過ごすことが出来ました。

12日はいよいよ居合神社での演武本番。本殿の中で正式参拝をさせて頂きました。お社の中に入れて頂けるとは思っていませんでしたので、驚きと同時に大変感激致しました。代表の森先生、村山市長はじめ地元の名士の方々のご挨拶の後、七流派八団体が本殿前の特設舞台で奉納演武を行い、貫汪館は館長、横浜支部長、私の三名で無雙神傳英信流抜刀兵法の英信流表と奥居合を奉納致しました。

演武後の直会では氏子の皆様が用意してくださった郷土の食べ物を頂きました。いずれも美味しく、特に名産品として有名なさくらんぼは大変美味でした。

これほど多くの団体が一堂に会しての奉納演武は居合神社でも初めてのことで伺いました。そのような盛大な会に参加させて頂き、大変光栄に思います。開催にあたりご尽力された皆様にこの場を借りて御礼申し上げます。誠にありがとうございました。

名古屋西支部長 林大介





## 貫汪館 本部講習会（澁川一流柔術）

7月16日から18日の3日間、澁川一流柔術の本部講習会が開催されました。

第一日目は、半棒と居合（抜刀術）、二日目は、六尺棒裏、履形、吉掛、込入、打込、三日目は、両懐剣、互棒、四留、拳匪、杵型などが行われました。

初日の半棒では、礼法に時間をかけ、両足の土踏まずに体の重心がしっかり落ちて、地とひとつになり、体全体に無理無駄がなく、棒もその重さで自然に動いていくこと、礼法の中に基本が包括され、その大切さをあらためて学びました。

二日目以降は、特に履形に時間をかけましたが、やはり基本の履形を行うことで、以降の理合を学ぶことができ、さらに大切なのは、自分の臍下丹田を中心に自然な呼吸のもと動くことで、加えて独りよがりではなく、受けと捕りが対話というか、互いに和を成すことが、合理的で自然な動きになることを感じました。

森本館長から、澁川一流の目録から主要な形を体系づけて、直接、ご指導いただいたわけですが、その繊細さに触れ、極めて充実した講習会となりました。

本部道場 定木秀早



## 貫汪館 横浜講習会（英信流表&大小詰・大小立詰）

平成28年7月23日（土）横浜支部恒例、館長をお招きしての横浜講習会を開催いたしました。今回も地元神奈川、東京からのご参加に加えて、名古屋西支部長にもご参加をいただきました。今回の会場は空調も効いていて、快適な環境での稽古となりました。

前半は英信流表です。まず、礼法から。立って神前へ礼をするにあたり、刀を持ち替えます。腕の力で刀を持ち上げるのではなく、力を抜くことで動きます。まずこれが難しい。二人一組となって、腕を持ち上げてぷらぷらさせてストンと落とす、という稽古をしました。これは、難波一甫流の基本の稽古でもあります。自分の腕の重さが感じられるようであればなりません。

続いて、座り、刀礼し、帯刀。貫汪館では、これらもすべて業に直結しています。ゆめゆめおろそかにすることはできません。

そして、英信流の座法である居合膝（立膝）の稽古。初めての人、そうではない人。いずれも苦労されていました。英信流の基本は、この居合膝です。正しく座ることができれば、業もなかばはできたようなもの。正しく座ることができなければ、業ができようはずもありません。これは、大森流でも同じことです。正座は誰でもできると思いがちです。ですが、貫汪館の無双神伝英信流抜刀兵法における要求を満たしているかどうか。あらためて確認が必要かもしれません。

続いて抜き付け。大森流よりも英信流の方が抜き付けが楽、というのはできる人の話。皆さん、慣れない座り方からの抜き付けに四苦八苦されていました。

礼法と座法で30分ほど、抜き付けだけで30分ほど。それから運剣、斬撃。気付けば、休憩なしで2時間ほどが経過していました。形の稽古は、ここで切り上げることに。

最後に、二人一組となって木刀で山下風の引き倒しを稽古しました。バラバラの手足と体で、腕力を使って相手を倒してもせんなきこと。統一された体で、肚の力を遣って倒す。その腕に力感はありません。倒す方は何事もなき態で、倒された方も何をされたかわからない。それが正しい姿かと思えます。その不思議な感覚を求めて、稽古を続けていきたいと思えます。

前半は英信流表の予定でしたが、礼法と座法そして抜き付けにほとんど終始いたしました。少ない項目ではありましたが、内容の濃い、充実した稽古ができたかと思えます。

後半は、大小詰と大小立詰。居合膝で向かい合って座り、刀の柄を押しえられたところから相手を倒します。これも先に稽古した木刀での引き倒しと同じです。倒す方はなにもせず、倒される方はなにも感じず。それが正しい姿かと思えます。大小詰は八本のうち柄留を除く七本を稽古し、大小立詰は七本のうちメ捕、蜻蛉返、乱曲の三本を稽古しました。休憩を含めて約4時間、充実した稽古だったかと思えます。

横浜支部長 内住信之



## 貫汪館 本部講習会（基礎を身につけるための講習会）

8月6日から11日までの6日間、基礎を身につけるための本部講習会に参加しました。

講習会の開催期間は、まさに真夏の猛暑日でありましたが、参加者は、みな熱中症に注意し、水分補給を怠らず稽古を行いました。

講習会は、無雙神傳英信流居合兵法の礼法、大森流、大石神影流剣術の構え、試合口、陽ノ表、澁川一流柔術の履形、吉掛、半棒、六尺棒など貫汪館で学ぶ古武道全般にわたる極めて濃い内容でした。

今回の講習会には、イギリスのロンドンから外国人の方が参加されました。

ロンドンで空手の道場を開かれており、さすがに体には武道的な動きや正中線の保持など基本部分を修練されており、しだいによどみない動きとなり、またとても研究熱心で、多くの形を習得され、最終日の昇段審査でみごと段位を取得されました。

講習では、森本館長から、「地にしっかりと安定する重心の低さとゆるがない中心線、常に臍下丹田が原動力であり、それを意識すること、そして鼠蹊部の緩み。」など、繰り返し指導をうけるものの、私自身、自分のできないところばかりが目立ち反省しきりでしたが、「自分のできないところが理解できることも進歩です。」との館長の言葉に、稽古、修行の困難な道のり、なにより基本の大切さを痛感させられたところでした。

本部道場 定木秀早





## 出雲大社奉納演武

平成28年8月28日（日）貫汪館主催の出雲大社奉納演武を執り行いました。今年も直心影流薙刀術の先生方お二人をお招きし、無事に行うことが出来ました。

今回の奉納演武は、私にとって二回目の奉納演武でした。以前の奉納演武では、大森流の居合の形と大石神影流剣術の試合口を演武しましたが、今年は大森流の居合、太刀打、大石神影流剣術の陽の表、渋川一流柔術の履形、打込、半棒の形を演武させていただきました。演武では、私の力不足でとても緊張してしまいましたが、今の自分の実力を出し切るように努めました。また、館長の森本先生、直心影流薙刀術の井上先生、福岡先生、また、他の門人の方々が演武される姿を見て、たくさんの事を学ばせていただくとともに、自分になりてない部分も実感させられました。しかしながら、無事に演武を奉納することができて良かったです。

最後に、今回の出雲大社奉納演武では、演武自体からはもちろん、先生方や他の皆さんから多くのことを学ばせていただいたこと、奉納演武をさせて頂いたことにとっても感謝したいです。そして、今回学ばせて頂いたことを生かして、これからの稽古に取り組んでいきたいです。

本部道場 堀井亮佑

